



分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																			
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17			
環境	22	【環境汚染予防】 ・廃棄物や有害化学物質の適切な管理、及び処理に取り組んでいる。	●		・有害化学物質の取扱いは特にないが、廃棄物については分別を徹底し、適切な管理及び処理に取り組んでいる。 ・生ごみ処理機により、最後は水にして排出している。			3.9		6.3					11.6	12.4		14.1	15.1						
	23	【エネルギー】 ・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	●		・施設管理課の中央監視盤により常にエネルギー使用量を監視しており、館内の節電に取り組んでいる。 ・館内の照明もLED化している。							7.3						13							
	24	【温暖化対策】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。	●		・定期的に環境測定を実施しており、その結果に基づいてCO2排出削減に取り組んでいる。 ・レジ袋に植物由来プラスチックを50%使用したものを使用し、石油資源の節約とCO2排出削減に貢献している。		2.4					7.2 7.3 7.a				12.4	13	14	15						
	25	【生物多様性】 ・自社活動が環境(生物多様性や生態系等)に悪影響を及ぼさないように配慮している。	●		・レジ袋に植物由来プラスチックを50%使用したものを使用し、石油資源の節約とCO2排出削減に貢献している。					6.6									14	15					
	26	【効率的な資源利用】 ・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)に取り組んでいる。	●		・個人情報に関係ない用紙はできるだけ裏紙として利用促進している。 ・生ごみ処理機により最後は水にして排出し、ごみを削減している。									9.4			12.2 12.4 12.5		14.1	15					
	27	【水の管理】 ・熊本の水資源の質と量の保全に取り組んでいる。	●		・館内のトイレを節水トイレに変更し、水資源の保全に取り組んでいる。 ・地下水を利用しており、常に使用量を把握しながら職員への節水を注意喚起している。		2.4				6.1 6.3 6.4 6.6 6.b					11.5			14.1 14.2 14.3	15			17		
	28	【環境に配慮した製品等】 ・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる(グリーン購入、リサイクル製品認証等)。	●		・レジ袋に植物由来プラスチックを50%使用したものを使用し、石油資源の節約とCO2排出削減に貢献している。									9.4			12.4 12.5	13	14	15					
	29	【食品ロスの削減】 食品ロスの削減に取り組んでいる。		●	・売残り野菜を調理して総菜として販売している。		1	2			6.4							12.3		14	15			17	
	30	【緑の保全管理】 ・壁面緑化や植栽など緑の創出と保全、管理に取り組んでいる。		●	・屋外には植栽による緑化に取り組んでおり、緑に包まれたその中での挙式を実施している。 ・1F及び4Fのレストランにも庭園を設け、熊本城をバックにした癒しの緑化空間を提供している。 ・遊休地に芝を貼りドッグランを運営している。												11.6 11.7		13.1 13.3		15			17	
	31	【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】 ・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善または再生可能エネルギーの利用や供給に取り組んでいる。		●									7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.5		13.1 13.3						
	32	【森林資源の循環利用に向けた取組み】 ・「伐って、使って、植えて、育てる」の持続的な森林利用への取組みを推進している。		●							6				9.4		11.3 11.4 11.5	12.2	13		15				
	33	【植林等の取組み】 ・植林等の森林整備活動に取り組んでいる。		●							6.1 6.3 6.6						11.3 11.4 11.5	12.2	13		15				
	34	【海洋ごみ】 ・環境中で分解しにくいプラスチックの使用削減等、海洋ごみ、海洋汚染の防止削減に貢献している。		●														12.2 12.5		14					
	35	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境にやさしい自動車の使用を促進している。		●	・勤務体系上やむを得ない場合を除き、極力公共交通機関を利用した通勤を勧めることで、エコ通勤を推進している。 ・チャリチャリポートを提供している。										9.4		11.2		13.1 13.3						
36	【2050年CO2排出量実質ゼロへの取組み】 ・2050年CO2排出実質ゼロを目指し、計画的にCO2削減に取り組んでいる。		●									7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.6 11.a	12.8	13					17.2		

